



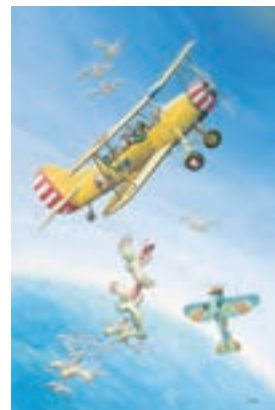
2013

社会・環境報告書

SOCIAL AND ENVIRONMENTAL REPORT

表紙の絵について

本報告書の表紙絵は、障がい者ライブラリー「アートビリティ」に登録されている、尾崎わたるさんの作品「月まで一直線」を使用させていただきました。



●アートビリティ

社会福祉法人東京コロニーが、障がい者アーティストの自立・自活支援を目的に設立したアートギャラリー。作品の使用料がアーティストに還元されています。

尾崎 わたる(おざき わたる)

1948年生まれ。神奈川県川崎市在住。
43歳のとき脳内出血により、利き手側の右半身不随となり、入院生活を重ねリハビリを行う。「もう一度、絵を描けるようになりたい」という強い思いで、きびしい訓練に耐え、左手で絵を描く練習を始める。ご家族の強力なバックアップもあって、少しずつ自分でも納得のいく作品を描けるまでに回復。プロペラ飛行機と犬のキャラクターをモチーフにした独自のストーリー性のある作品で、現在はアートビリティの人気作家として活躍している。
第14回アートビリティ・アサヒビール奨励賞受賞。
第15回アートビリティ・日立キャピタル特別賞受賞。
第16回アートビリティ大賞受賞。

お問い合わせ先

綜研化学株式会社

経営管理部・環境・品質保証室

〒171-8531 東京都豊島区高田三丁目29番5号

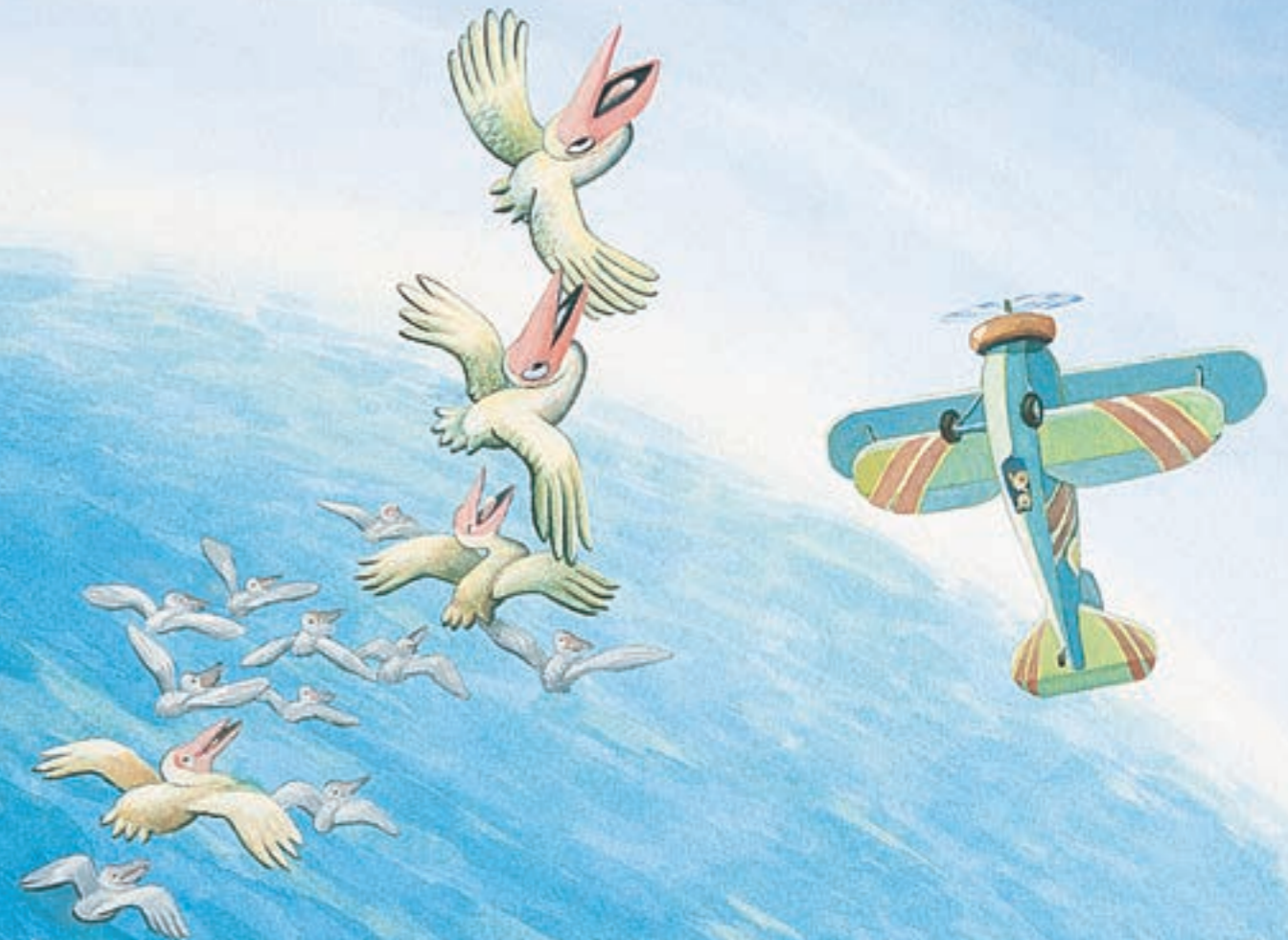
TEL.03-3983-3171 FAX. 03-3988-9216

URL : <http://www.soken-ce.co.jp>

e-mail : soken@soken-ce.co.jp



この社会・環境報告書には、有害なVOC(揮発性有機化合物)成分が含まれていない植物性インキ、印刷時に浸し水を使用せず同じくVOCを大幅に低減する水なし印刷が採用されております。



はじめに

綜研化学グループは、地球環境保全のために、事業活動において地球温暖化防止と資源循環に積極的に取り組む環境経営を進めており、同時に、企業としての社会的責任を担うべく、法令を順守し、内部統制システムを充実させ、社会貢献を行うことなどで、社会の公器にふさわしい企業体質の構築につとめています。

本報告書において、その進捗状況をステークホルダーの皆様にご報告するとともに、自らの反省材料とし、今後の取り組みへの糧としていきたいと考えております。

■ 対象範囲と期間

本報告書は、国内綜研化学グループ（綜研化学、綜研テクノックス、浜岡綜研、狭山綜研）の活動状況を掲載しています。

実績データ及び取り組み内容は、2012年度（2012年4月1日から2013年3月31日まで）を対象として掲載し、組織・体制などは2013年8月現在のものを掲載しています。

■ ガイドライン

本報告書の作成にあたっては、環境省「環境報告ガイドライン2012年度版」を参考にしています。

目次

はじめに	2	環境的側面	18～25
トップメッセージ	3	環境負荷低減のための活動	18
綜研化学グループ・経営理念・会社概要	4～5	環境中期計画	19
特集 身近なSoken製品!	6～9	環境マネジメントシステム	20～21
社会的側面	10～17	環境配慮型製品	22
お客様・お取引先の皆様とともに	10	地球温暖化防止	23
株主・投資家の皆様とともに	11	化学物質による汚染防止および環境リスクの低減	24
従業員とともに	12～13	サイトデータ	25
地域の皆様とともに	14～17	マネジメント	26
		コーポレート・ガバナンス	26
		第三者意見	27

トップメッセージ



代表取締役社長
逢坂 紀行

当社グループは、独自技術による革新的製品の開発と提供により、豊かで持続可能な社会の実現に貢献できるよう努めており、全ての事業活動において、安全確保、環境保全、コンプライアンスを徹底するとともに、地域貢献活動にも積極的に取り組んでおります。

2012年度は、主力の粘着剤や微粉体の販売数量の増加に対応するため、各生産拠点において生産体制の強化を進めてまいりました。工場ではお客様の要求に柔軟かつ迅速に対応するため、生産体制や生産品目などの急な変更を要することもあります。事業活動を行う上で、「安全は全ての業務において優先する」という認識の下、危機管理体制を強化し、安全確保への取り組みを積極的に推進してまいりました。当社グループが最も重視すべき使命は、お客様に当社製品を安定的に供給することであり、東日本大震災の経験も踏まえ、サプライチェーンの寸断など、原材料の調達が困難になる状況を想定した原材料のグローバル調達や複数購買の推進、海外拠点の生産能力の拡充によるグローバルでの製品供給体制の構築に当社グループを上げて取り組んでおります。

国内の各事業所における環境保全や社会貢献に関する具体的な取り組みとしましては、狭山事業所での騒音低減対策の推進、浜岡事業所での太陽光パネル

による太陽光発電の開始などの環境保全活動、地域清掃ボランティアや地域イベントへの参加、地域の小学生を対象とした理科実験教室などの地域社会貢献活動を進めてまいりました。当社は化学品などの危険物を扱っておりますが、特に狭山事業所近隣地域の皆様の不安や疑問を解消し、当社事業についてより一層ご理解を頂くために、工場見学会など積極的な情報発信を行い、地域に開かれた事業所の実現に向け取り組んでまいりました。今後もこれらの活動により、身近な企業市民として地域との共生に努めてまいります。

当社グループは、創業以来受け継がれてきた「技術を通して社会に貢献する」精神に基づき、地球環境保全に配慮した皆様に喜ばれる価値あるモノづくりを進めてまいりました。当社製品はその性質上、普段の生活において直接目にする機会はほとんどございませんが、本報告書におきまして、当社の製品をより身近に感じていただけるような特集ページを組んでご紹介しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

今後も地域社会との連携を図りつつ、より魅力ある企業を目指し、皆様からの信頼とご期待にお応えすべく努力してまいりますので、一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

綜研化学グループ総従業員数 **1,081名** (2013年3月31日現在)



盤錦遼河綜研化学

生産・販売品目：熱媒体
従業員数：125名

2014年度操業予定

綜研新材料（啓東）

2013年度操業予定

綜研高新材料（南京）

生産・販売品目：粘着剤 特殊機能材
従業員数：29名



綜研化学（蘇州）

生産・販売品目：微粉体 特殊機能材
従業員数：113名



綜研化学アジア

生産・販売品目：加工製品 粘着剤
従業員数：52名



綜研化学シンガポール

販売品目：加工製品 粘着剤
従業員数：4名

狭山綜研

生産品目：粘着剤 微粉体 特殊機能材 加工製品
従業員数：54名



綜研化学

生産・販売品目：粘着剤 微粉体 特殊機能材
加工製品 微細加工金型・樹脂型
従業員数：224名



綜研テクニクス

事業・製品：装置システム 熱媒体
従業員数：35名

浜岡綜研

生産品目：粘着剤 特殊機能材 微粉体中間体
従業員数：76名



寧波綜研化学

生産・販売品目：加工製品 粘着剤
従業員数：369名



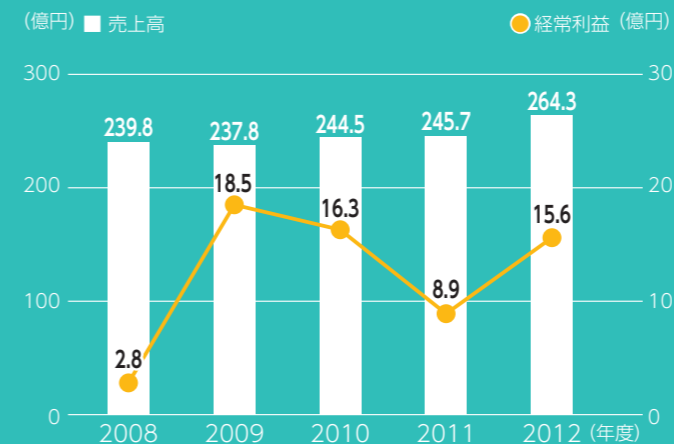
経営理念

1. 私たちは常に誠実であるとともに、創造と工夫に情熱と責任を持って挑戦し続けます。
2. 地球環境の保全を指向しつつ、社会に役立つ革新的製品を提供します。
3. お客様には心からの満足を、株主の方々には共感を、そして私たちは働く喜びを実現していくことに最善を尽くします。

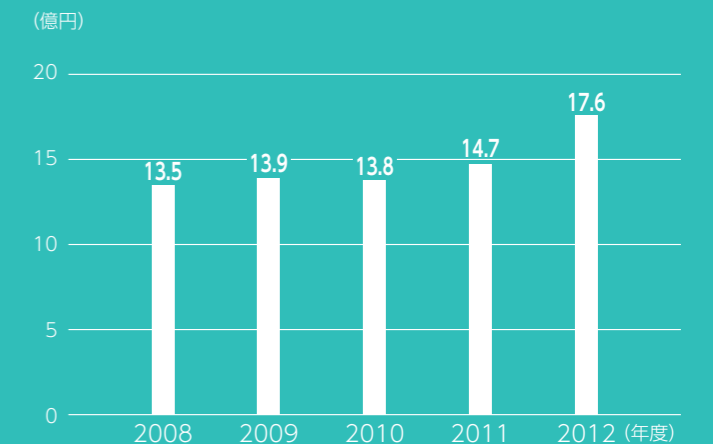
会社概要

商号 綜研化学株式会社 Soken Chemical & Engineering Co.,Ltd.
創立 1948年9月2日
資本金 33億6,156万円
株式 東京証券取引所 JASDAQ 上場(コードNo.4972)

売上高・経常利益



研究開発費



身近な Soken 製品!

綜研化学の製品は、粘着剤、微粉体、特殊機能材、加工製品という、普段の生活では耳慣れないものが大半です。でも、ちょっと周りを見てみると……「あれ?ここにも!」「へえ~, これも!」と身近なところにSoken製品があります。直接は見え隠れている部分ではありますが、しっかりと皆さんの生活をサポートしています。

ここにも!
Soken!
家庭で

テレビ



液晶パネル内シート貼り合せ



筐体・内部
部品固定



バックライト内光拡散シート拡散剤
前面反射防止フィルム添加剤



電子回路
製造工程

冷蔵庫



筐体・内部
部品固定

システムキッチン



筐体・内部
部品固定

化粧品



ファンデーション
添加剤

バスタブ



人工大理石
添加剤



粘着剤

アクリルでできた粘着剤で、主に両面テープなどに加工して使われます。



微粉体

アクリルやスチレンでできたマイクロサイズの微粒子で、色々なものに混ぜて使います。



特殊機能材

プラスチックに混ぜると、柔らかくできたり硬くできたり、特徴を変えることができるアクリル素材です。



加工製品

粘着剤を薄く塗った両面テープや粘着フィルムです。

ここにも!
Soken!
仕事で



LED蛍光灯

- プラスチック
カバー添加剤
- LED基板の
固定・放熱

書類ロッカー

- 表面塗料
添加剤



看板

- 文字看板
固定
- 塗料添加剤

ショーウィンドー

- ガラス飛散
防止フィルム
貼り合せ

コピー複合機

- トナー
添加剤

パソコン・スマートフォン・タブレット

- 液晶パネル内シート貼り合せ
- 筐体・内部
部品固定
- バックライト内光拡散シート拡散剤
- 電子回路
製造工程
- 前面反射防止フィルム添加剤

自動車

- 内装外装部材
貼り合せ
- 塗料添加剤

食品/日用品

- ラベル
貼り合せ
- プラスチック
包装袋添加剤



ここにも!
Soken!
買物で

お客様・お取引先の皆様とともに

綜研化学グループは、ケミカルズ製品の研究・開発のノウハウと、製品化・量産化するためのエンジニアリングの技術を活かし、お客様のニーズに高いレベルで迅速に対応することを目指しています。また、製品開発の過程の中で「お客様との信頼関係を大切にすること」を信念としています。

品質方針

- 1 顧客満足の絶えざる向上を目指し、品質マネジメントシステムの実践とその有効性を継続的に点検し、顧客の期待に応える魅力ある製品とサービスを提供します。
- 2 法令・規制要求事項の遵守は当然のこととして、顧客の品質に対する要求事項を満たすことが、顧客からの信頼を確保する上で重要であるとの認識を社内に徹底します。
- 3 品質方針と整合した品質目標を設定し、その見直しを含めた目標管理の仕組みを作り、実践します。

スローガン
「高品質で拓け未来を！」

お取引先様からのメッセージ

弊社は創業約90年の化学品専門商社であり、綜研化学様の創業当時より約60年の長きに亘りお取引をさせて頂き感謝しております。

綜研化学様は粘着剤製品・アクリルポリマー製品で得意とされているアクリル重合技術を活かし、高不揮発分タイプやノン・トルエンタイプなど地球や人に優しい製品を創出されておられます。経営理念で謳われておられる“地球の環境保全”を今後とも指向され、他社にないオンリーワン製品の開発及び積極的な海外展開を続けて頂きたく、御社のファンの一人として期待しております。



KISCO株式会社
執行役員
吉本 泰雄様

お客様の信頼に応えます

2011年3月11日の東日本大震災以降、企業においてはBCP（事業継続計画）に対する意識が高まっており、当社としましても安全かつ安心した製品を安定的に供給することがお客様の信頼に応えるための責務と捉え、常日頃、BCPをより強化にすることに取り組んでおります。

地震や台風災害などの不可抗力ともいえる天災や化学工場の事故によって、設備トラブルや原材料入手困難により生産停止、製品供給に支障をきたす等、企業が存続していく上でさまざまな事業上のリスクに直面することが想定されますが、そのような状況の中、リスクマネジメントを整備する事が重要であると考えております。

生産、購買部門としましては常に安定した製品供給を目指すためにリスク発生を想定した生産計画、在庫管理の適正化、天災時の設備リスクダメージの低減、原材料の入手困難を想定した代替原材料の選定などの対策検討を実施しております。特に原材料の代替品選定につきましては、使用可否検討や安全性・品質・環境評価に取り組むことが不可欠であり、お客様、サプライヤーの皆様方のご協力、連携により、安定した製品供給ができるものと確信しております。



執行役員
購買担当
生産管理部長
浜岡事業所長
坂本 隆弘

株主・投資家の皆様とともに

綜研化学グループは、経営理念に「株主の皆様からの共感を実現していくこと」を掲げ、適時的確な企業情報を開示し、高い信頼性と透明性の保持に努めています。

IR活動

経営の透明性を高め、企業の説明責任を果たすため、各種IRツールを通じて、株主・投資家の皆様へ情報をお届けしています。

WebサイトのIR情報掲載ページ

迅速な情報開示を行っています。



ビジネスレポート

中間、期末の年2回、事業活動の概況をお届けします。



FACTBOOK

投資分析に必要な情報を掲載しています。



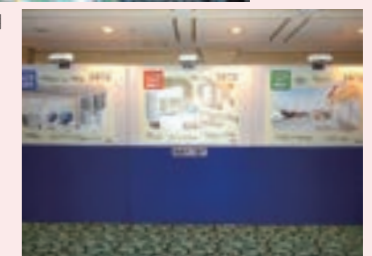
株主懇談会

毎年株主総会後に、株主懇談会を開催しています。会場では、当社技術や製品を身近に感じていただけるよう、製品やポスターを展示し、ご質問にもその場でお答えしています。

2012年度は、「ここにもSoken!」という特大ポスター3枚を作成し、新規事業製品と共に展示しました。



懇談会での展示品説明



「ここにもSoken!」
ポスター展示



新規事業製品展示

決算説明会

中間、期末の決算発表後、投資家の皆様、証券アナリストを中心とした説明会を開催し、事業活動の概況とこれからの見通しを説明しています。



利益分配に関する基本方針

当社は株主に対する利益還元を重要政策の一つと考え、事業拡大や技術革新に対応した設備投資及び研究開発投資を行い、海外展開による市場拡大と新製品・新技術の開発・量産化に努め、会社の競争力を維持・強化し、収益力の向上、財務体質の強化を図りながら、配当水準の向上と安定化に努めることを基本方針としております。

2012年度の利益配当金につきましては、利益分配に関する基本方針に基づき、安定的な配当を行うことが適切と考え、前期配当と同額の1株当たり35円とさせていただきます。

従業員とともに

経営理念に定める「働く喜びの実現」を達成するために、誰もが“働きやすい”と実感できる職場を目指し、様々な制度を設けています。

》》 従業員の心と身体の健康を支える体制づくり

社内カウンセリング制度

従業員の心と身体の健康は、持てる力を職場で発揮していくうえで欠くことのできない重要な要素です。

厚生労働省の調査によれば、働く人の6割が“仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレスがある”と答えており、そのおもな原因としては職場の人間関係や仕事の量や質があげられています。

こうした問題を受けて、厚生労働省が企業に向けた対策指針を出し、多くの企業が真剣にこの問題に取り組むようになっています。当社では2012年4月より社内にて気軽にカウンセリングが受けられるような体制をつくり、心の健康をサポートしています。

ブラザー・シスター制度

新入社員が職場に慣れるまでの1年間、アドバイスや相談に特定の先輩社員がブラザー（シスター）として様々な相談に乗ったりアドバイスをしてくれます。社会人1年目をサポートする心強い制度です。

人間ドック補助金制度

35歳以上の従業員は、毎年無料で、日帰り人間ドックを受診することができます（本人及び被扶養配偶者対象）。一般検診（35歳未満が受診）より詳細に現在の状態をチェックできる人間ドックで、働きがりの健康づくりを進めています。

》》 従業員の相互親睦「綜和会」

従業員の親睦を図るための行事やクラブ活動を行う「綜和会」は、活動資金を会社が支援しています。野球、スキー、バドミントン、駅伝やアウトドア、海釣り、囲碁までクラブ内容も充実しており、若手から役員まで多くの従業員が参加しています。



バドミントン部



野球部



アウトドア部



スキー部

カウンセリングの有用性

近年、世の中でうつ病と診断される人が増えています。過重労働や職場の人間関係など原因は様々です。人間には適度なストレスは必要だともいわれていますが、強すぎるストレスが長期間持続するとストレスに起因するところの病気（メンタル疾患）につながるものが多くあります。

うつ病をはじめとするメンタル疾患による欠勤や休職は、本人はもちろん企業にとっても大きなダメージにつながりかねません。本人の労働力が低下するばかりでなく、その穴を埋めるために周囲の人の体力も消耗させます。また、対応の仕方によっては職場に不安が広がり士気も下がりがかねません。従業員の心のケアは、企業にとっても生産性を維持する上で重要なことなのです。

綜研化学さんも心と体の健康づくりの一環として、数年前から従業員の心のケアに前向きに取り組んでおり、私は2012年4月から社内カウンセリング（本社、狭山）を担当しています。

カウンセリングは不安や葛藤に悩み、心が不安定なときに有効です。カウンセラーに話をすることで、悩みの本質に気づいたり、気分がすっきりして、気持ちに余裕ができて、自分で解決策を見つけられることもあります。また、カウンセラーという理解者を得ることで力づけられるといった効果もあります。この他に、考え方や受け止め方のくせも、カウンセリングを継続していく中で改善していくことができます。カウンセリングは不安や葛藤のどうどう巡りから、抜け出す手助けとなります。

社内カウンセリングでは、仕事や職場のことに限らず、家庭のことなど、悩んでいることはどんなことでも相談を受けています。

これからも、従業員の皆さんが心身ともに健康な状態で働けるよう、カウンセリングを通してサポートしていきたいと思っています。



臨床心理士
シニア産業カウンセラー
三上 道代先生

》》 仕事と家庭生活の充実を支援する制度

次世代育成支援のための行動計画

（第1期）2011年8月1日～2013年7月31日

目標1. 効率的な仕事、付加価値の高い仕事への改善で総労働時間を削減する

目標2. 子を持つまたは要介護者を持つ社員が働きやすい職場環境をつくる

育児休業取得者の声

二児の母です。ということは、育児休業を2回とっており、職場への復帰も2度目です。当初から仕事と家庭を両立すると決意してきましたが、仕事をするってこんなに幸せなことだと実感したのは、職場に戻ってからです。

子供と一緒に過ごす時間はもちろん楽しいですが、多発する予想外の子育て事件と戦うのも母の毎日で、「会社にいる自分が本当の自分だな」と思ってしまうほどです。静かに思考できる環境、ほぼ予定通りに進む仕事、急用の時に優しく応援してくれる仲間、仕事ができる母は本当に幸せです。その上、仕事の段取りも以前より良くなった気がします。綜研化学ありがとう！



人事部
張 艶

看護休暇取得者の声

子供が風邪を引いたりインフルエンザに罹った時に看護休暇制度を利用しています。インフルエンザ等の感染症の場合、熱が下がってもすぐに保育園に預けることができないため、数日休まざるをえない場合があります。また、朝一番で病院に行く場合や急な発熱による保育園から呼び出された場合には、半日の看護休暇も取得できます。

有給で看護休暇を取得できるため、子育て世代には安心感がありとても助かっています。



事業企画室
新宮 圭介

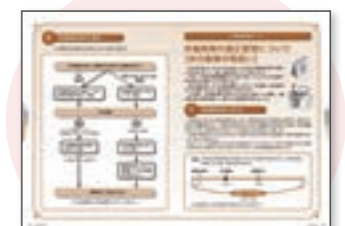
綜研化学グループでは、ワークライフバランスの向上を目指し、2011年8月に「次世代育成支援のための行動計画」を策定し、職業生活と家庭生活の両立を可能にして、働きやすい職場環境をつくることを目標としています。

目標1における働く時間削減のために、残業実績の公開や、有給休暇取得促進をしています。また、月2回定時退社の日を各部門で設けそれを徹底させる取組みを行っています。勤務時間にはフレックスタイムが導入されており、一部裁量労働と併せ、従業員の業務や事情に合わせたフレキシブルな勤務を可能にしています。

目標2を実現するために、男女共に子育てや介護をしながら働き続けられるように、育児休業規程・介護休業規程を改定しました。子の看護休暇は、育児・介護休業法の対象（小学校就学前の子供）を上回り、小学校卒業までの子供を対象とし、半日単位での取得を可能としています。

現在、第1期における実績をふまえ、次のステップに向けた取組みを検討中です。

★社内報に「人事関連情報コーナー」を掲載し、制度や取組みを従業員に判り易く解説しています。



地域の皆様とともに

綜研化学グループは、事業を通じた社会貢献と、事業所が所在する地域との積極的な交流に努めています。

社会貢献・地域交流

》》 子供たちの探究心を開く

子供たちに楽しく科学に触れてもらうことを目的として、当社技術等を用い、身近な道具を使って実験を行う理科教室を2008年度から開催しています。

2012年度のテーマは「表面張力」で、狭山市内の小学校から集った4年生以上25名を対象に、シャボン玉を作りながら、科学の不思議な世界を体験してもらいました。



理科教室に参加して

講義や実験内容を作るにあたっては、どのようにすれば理解しやすく勉強になり興味を持ってもらえるかという点で非常に苦労しました。ただ、今回のテーマが馴染みのある「シャボン玉」であったためか、子供達は大いに盛り上がってくれました。

終了後のアンケートでは多くの児童が「楽しかった!」「また参加したい!」といった回答を書いてくれて、本当に嬉しかったです。これも、地域の方々のご協力があって成功できたものと思います。今回の理科教室を通じて、皆が少しでも科学に興味をもってくれたらいいなと、思っています。



粘着・機能樹脂部
粘着剤技術G
田中 隆介



》》 インターンシップ生の受入

社会貢献活動の一環として、国内・海外問わず積極的にインターンシップ生を受け入れています。

2012年度は国内大学、海外（韓国）から計4名の研修生を受け入れました。



インターンシップ生の成果発表会

韓国漢陽大学からの インターンシップ JANG BITNAさん

就職を考える時期をむかえ、大学で専攻している日本語を使って日本の企業で実際に働いてみたいと思い、綜研化学でインターンシップを体験しました。最初は会社で働くということが初めてで緊張しましたが、会社の皆さんは優しく丁寧に指導してくださって、充実したワークライフを送ることができました。研究室での作業体験や展示会の受付などこれまでした事のない貴重な経験でした。社内でハンブル教室の講師もさせてもらい、皆さんに韓国の文化を少しでも伝えることが出来たことも良かったです。綜研化学での経験により、就職活動における視野を広げることができたと思います。



展示会で受付をするJANGさん（右）

》》 地域交流&ボランティア

地域交流を兼ね、地域イベント、ボランティアに積極的に参加しています。



御前崎市駅伝大会に参加し、力走したメンバーたち。



入間川クリーンボランティア、入間川七夕まつりクリーンボランティア（清掃活動）に参加しました。



静岡県ドラゴンボート大会御前崎市長杯

ドラゴンボートに 毎年参加しています

2008年に「静岡県ドラゴンボート大会御前崎市長杯」が始まりました。第1回大会時に浜岡事業所の若手社員を中心にチームを編成し参加し、以来5年連続で出場しています。地元でもとても注目度の高いスポーツイベントなので、今後も地元企業として積極的に参加し、ぜひ優勝を目指して頑張りたいと思っています。



浜岡事業所
浜岡総務G
池田 大輔

日本の化学工学発展に貢献

公益社団法人「化学工学会」は、化学工学の学術的水準の進展を支え、人材を育成し、それらの成果を社会に有機的に還元するための中心的学会として1936年から活動を行っています。

綜研化学では、初代社長の中島敏をはじめ多くの経営者、技術者たちが日本の化学技術発展のために当会の活動に積極的に携わって参りました。

2013年3月、会長の中島幹に対し、化学工学会より「名誉会員の証」が贈られました。



名誉会員の証を受ける綜研化学会長 中島幹（右）

地域の皆様とともに

安全操業に向けた取り組み

綜研化学グループでは、地域の皆様や従業員の安全を確保するために、「安全管理体制の充実と機能強化」、「生産設備と運用についての安全工学的な検討」および「安全教育の実施と緊急時訓練」を柱として、多方面からの取り組みを行っています。特に住宅地と隣接する狭山事業所（埼玉県狭山市）では、地域住民の皆様より頂戴した貴重なご意見等も参考とさせていただきます、防災と緊急時の対策に徹底して取り組んでまいります。

安全衛生管理体制と緊急・災害時の対応

安全衛生管理体制

化学品の製造・販売会社として、安全衛生管理を徹底して行うと共に、緊急・災害時の予防対応を慎重に施策しています。製造に関わる取組みとしては、設備や新規物質の導入、スケールアップ時の審査委員会を設置することで、危機回避を強化しています。

設備安全審査委員会

生産設備の導入にあたり、設備の審査を行い導入許可を与えます。
●審査項目 設備の安全対策、設備の運用方法、リスクアセスメント、法令順守、消費電力、運転時の発熱、振動、排気臭、運転時の音 など。

SU安全審査委員会

新しい製品の量産化にあたり、スケールアップの処方、手順が安全であるかを審査し見極めます。
●審査項目 製造時の発熱量、試作時の記録データ、生産時の手順など。

物質安全審査委員会

研究開発、製品製造において弊社で取り扱い経験のない薬品、原料を用いるにあたり、物質特性、安全性を審査し、使用許可を与えます。
●審査項目 保管条件、使用保護具等の取扱条件、廃棄方法、漏洩・火災など緊急時の対応、法令対応方法、取扱者への特別教育の要否 など。

緊急・災害時の対応

自衛消防隊と防災訓練

緊急・災害時の対策として、綜研化学グループではそれぞれの事業所で自衛消防隊を組織しています。

設備点検班、救急救護班、消火栓班、避難誘導班など、社員の役割を明確化し、災害時に適切な行動が取れるよう適宜対策確認と防災訓練を行っています。

防災訓練では地元消防署の監修のもと、避難経路及び初期消火手順の確認と実際の消火訓練も行っています（工場のある狭山事業所と浜岡事業所は年2回の訓練を実施）。

狭山事業所では毎年屋内消火栓操法大会に出場しており、平成24年度は2チームが出場し共に入賞を果たしました。

緊急時マニュアルの整備

防災対策の徹底とともに、万一の災害に備えた行動指針（緊急時マニュアル）を整備し、作業員に徹底させています。

〈実際起きてしまった事故対応〉

2012年6月、狭山事業所研究棟において実験中に発火するという事故が発生いたしましたが、マニュアルに則った行動により初期消火で鎮火し、通報、報告から消防署の鎮火確認に至りました。



定期的に行われる安全パトロール 狭山市自衛消防隊屋内消火栓操法大会

狭山事業所 防災訓練



浜岡事業所 防災訓練



地域住民の皆様にご理解いただくために

工場見学会

狭山事業所では、地域住民の皆様を対象とした工場見学会を毎年実施しています。施設の概要をご説明し工場を見学いただくことで、操業に対するご理解をいただくとともに、ご意見ご要望を伺い今後の改善に努めてまいります。

工場見学会に参加した皆様からのご感想(抜粋)

- 自分たちの生活に密着したものを作っているのがわかった。
- 事業内容がわかり不安がなくなりました。近隣地域住民にもっと貴社の安全性をPRして下さい。
- 平日の見学のために従業員の動きが見られて良かった。子供にも見学させると興味がわくと思います。
- 整理整頓が良くきれいな作業所で安心した。長年のイメージが変わりました。
- ごみが通路になくて驚きました。
- 廃棄物、排出物の処理に努力し、ISO取得など環境に配慮していると感じました。地域への配慮にも感謝します。
- 原材料の性質やそのリスクについての説明もして欲しい。
- 安全に作業を進めてください(人体に害を与える物質管理を徹底してください)。
- 昔は臭いや音が気になりましたが、最近はなくなっているようです。努力していただいていると感じました。
- これからも見学会を継続してください。



工場見学会

近隣の皆様に安心感を持っていただくために

狭山事業所は何と言っても住宅に囲まれた化学工場であります。近隣住民の方に少しでも安心感を抱いていただき、また、内部的には危険、リスクを少しでも減らして操業を維持していくことが必須課題です。何よりも住民の方に事業所を見ていただき、知っていただくことが安心につながります。ここ2年間で2回の工場見学会を実施し、大分不安は払拭されたと感じます。一方、見学者の方々に意見、感想をいただきましたが、我々が気づかない視点での危険への気づきが出来、感度が向上したと思います。



取締役 執行役員 狭山事業所長 池田 裕治

これからも見学会などを通じて、住民の方々の理解を深めるとともに、要望をお聞きし反映させていきたいと思っております。同時に、当社の技術、商品の紹介も行ない、最先端技術の会社という認知もいただいております。今後もアピールして行きたいと思っております。

環境負荷低減のための活動

「環境保全を指向しつつ社会に役立つ革新的製品を提供する」という経営理念のもとに自主的、積極的に環境への配慮を考えた企業活動を行っています。

環境方針

綜研化学グループは、独創的な研究開発・技術を追求する研究開発型企業として、粘着剤、微粉体、特殊機能材等の高機能ケミカルズ、それを応用した加工製品および装置関連事業等の事業領域で、環境保護を指向した製品を開発し、生産・販売活動に努めます。社員一人ひとりが地球環境に配慮した企業活動を行い、環境保全に努め、社会に貢献します。

基本方針

- 1 全員参加のもとに環境保全活動を進め、継続的な改善と環境汚染の予防に努めます。
- 2 関連する法令等の要求事項を順守するとともに、高い倫理観と良識をもって社会的責任を果たします。

行動指針

- 1 事業活動や製品が環境に与える影響を評価し、環境改善の目的および目標の設定と、見直しを含め環境改善を進めます。
- 2 省エネルギー活動を主体とした「地球温暖化防止」と3R(リデュース、リユース、リサイクル)による「資源の循環」に取り組みます。
- 3 化学物質による汚染の防止など、環境リスクの低減に努めます。
- 4 環境にやさしい製品の開発に努めます。

2008年6月25日
綜研化学株式会社

環境中期計画

2008～2010年度の第二次環境中期計画、2011年度環境計画の結果を受けて、2012～2014年の取り組みを第三次環境中期計画として策定しました。本年度はその初年度にあたります。

第三次環境中期計画

	中期目標	目標	実績	評価
環境配慮型製品売上比率向上の推進	2014年度 売上高比率 25%	2012年度目標 15.8%	2012年度実績 12.9%	×
地球温暖化防止の推進				
(1)粘着剤・機能材製品	2014年度 環境効率*1 8.45	2012年度目標 7.62	2012年度実績 9.75	○
(2)微粉体製品	2014年度 環境効率 0.27	2012年度目標 0.23	2012年度実績 0.29	○
(3)加工製品	2014年度 環境効率 0.47	2012年度目標 0.42	2012年度実績 0.55	○
(4)非生産部門のCO ₂ 排出量	2014年度 CO ₂ 排出量 1,420t	2012年度目標 1,573t	2012年度実績 1,805t	×
化学物質による汚染防止および環境リスクの低減	①臭気、VOC(揮発性有機化合物)発生源対策の実施 ②騒音、振動発生源対策の実施	2012年度目標 ・臭気・VOC、粉塵の排出抑制 ・騒音、振動リスクの削減 ・地域社会からの環境情報入手	2012年度実績 ・粉体工場分級機の捕集率向上(狭山) ・事業所見学会実施(狭山) ・粘着剤工場閉鎖系高速洗浄実施(浜岡)など	○

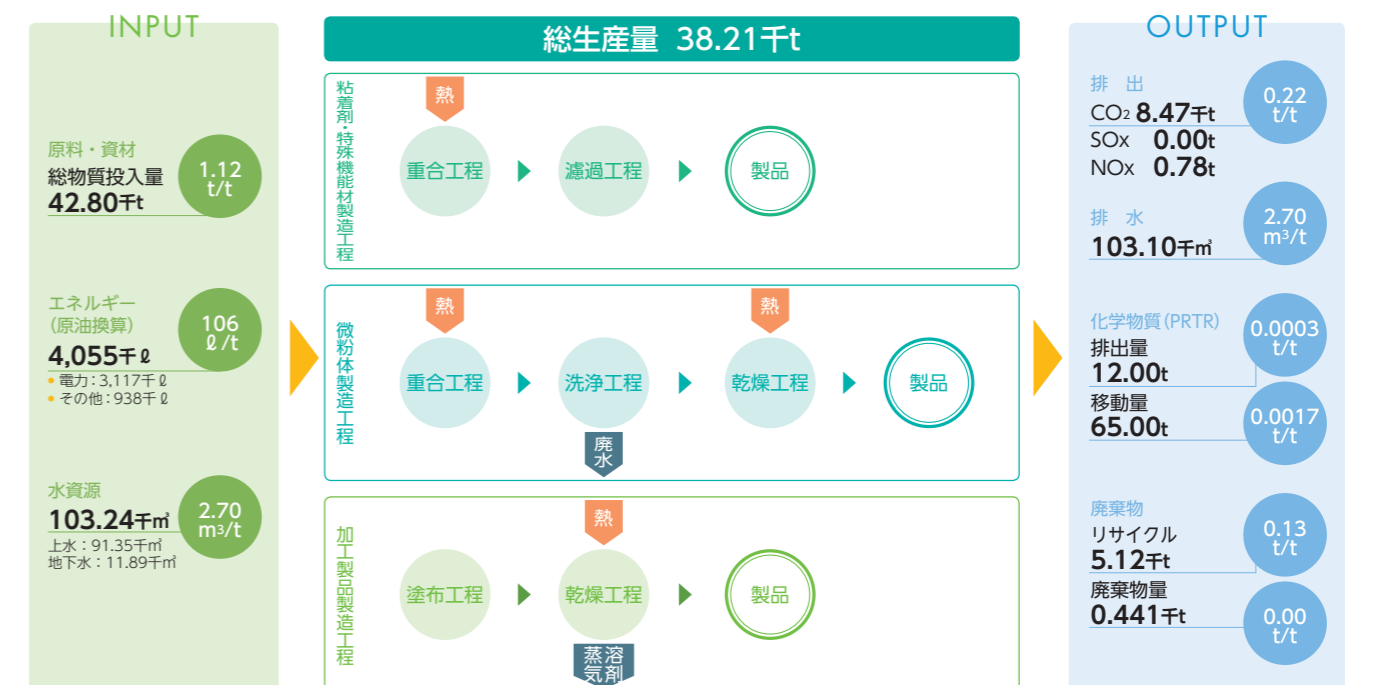
*1 環境効率

$$\text{環境効率} = \frac{\text{生産高} \cdots \text{グループ内生産量 (単位 t)}}{\text{生産時の環境負荷} \cdots \text{CO}_2\text{排出量: (単位 tCO}_2\text{)}} \times \text{評価: } \text{○達成 } \times \text{未達成}$$

第三次環境中期計画の重要課題3項目のうち「地球温暖化防止の推進」の環境効率、「化学物質による汚染防止および環境リスクの低減」は好調な生産、各施策の実施により達成できましたが、反面「環境配慮型製品売上比率向上の推進」、「地球温暖化防止の推進」の非生産部門のCO₂排出量は未達となりました。

マテリアルフロー

企業活動による環境影響を把握するため、使用した原材料、エネルギー、水資源等のインプットに対して、生産した製品量、大気・水域への排出物、廃棄物等のアウトプットの関係を表したものです。これらの結果をふまえ、より一層の資源の有効活用を図ります。



環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステム導入開始から11年が経過しました。
それぞれの活動単位である本社・狭山・浜岡の各サイトでは環境負荷低減を目的とした活動に取り組んでいます。

統括環境管理責任者より

原子力発電所の停止など東日本大震災の影響が残る中、2012年度は急激な円安も加わり、社会の省エネ推進の風潮が高まった年といえます。綜研化学グループでは第3次環境中期計画を策定し企業活動による環境負荷低減を目的として取り組みました。

環境影響が大きい浜岡サイトでは省エネ施策に加え、太陽光発電を導入し、創電も開始しました。本社サイトではエアコンの省エネチューニングなどにより節電を強化しました。狭山サイトでは、地域住民の住環境配慮に注力しましたが、生産設備洗浄方法の改良など、省エネにつながる開発を行いました。

2013年度はより適切に活動を進めるため、各サイトの置かれた環境を重視してサイトの自由度を上げた活動を続けます。

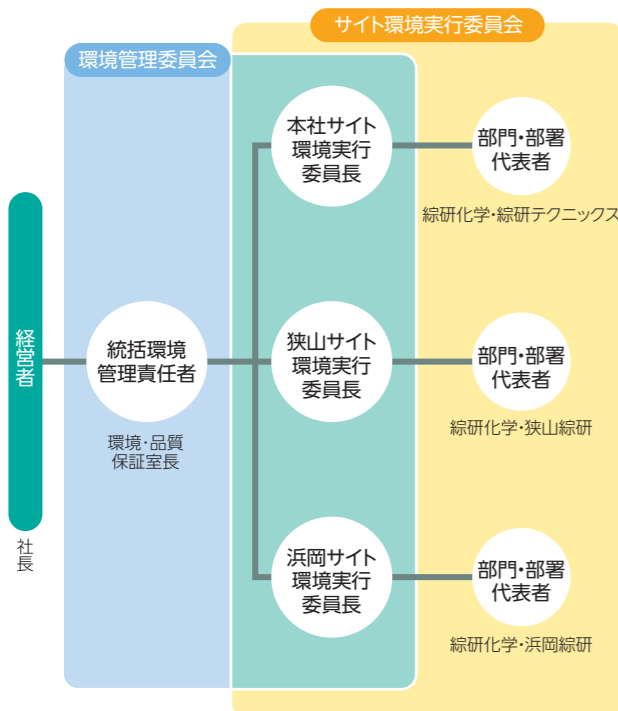


統括環境管理責任者
環境・品質保証室長
山岸 雅幸

環境マネジメントシステムの推進体制

環境マネジメントシステム経営者である社長から任命された統括環境管理責任者がシステムを管理し、本社、狭山、浜岡の3サイトの代表者で構成する環境管理委員会が活動の方向性を定めています。各サイトに所属する部門・部署代表者でサイト環境実行委員会を組織し、サイトの特性に合わせた活動を展開しています。

環境マネジメントシステム推進体制図



著しい環境側面*1の管理状況

著しい環境側面として特定している項目は、狭山サイト4件、浜岡サイト1件の計5件です。これらは管理の手順を定めて運用しています。

著しい環境側面の管理状況

管理項目	管理状況
1 揮発性有機化合物の放出	粘着剤・機能材製品製造時に反応設備から発生する揮発性有機化合物の蒸気を凝縮捕集する設備を設置し、大気中への拡散防止を図っています。
2 微粉体製造時の廃水排出	微粉体製造に伴う廃水を保管するタンクから廃水が溢れ出すことを防止するために、タンクの操作手順書を制定し管理しています。
3 高効率脱臭装置からの排気ガスの排出	加工製品製造時に発生する揮発性有機化合物の臭気を低減するために燃焼処理する設備を設置しています。この装置を正常に稼働させるために操作手順を定め、運用しています。
4 コンプレッサーの騒音	粉体工場のコンプレッサー運転時に発生する騒音が外部環境に悪影響を及ぼさないよう遮音するとともに、日常的な監視を継続しています。
浜岡サイト 1 静電気放電による火災	多量の引火性液体を使用しているため、静電気放電による火災が発生する可能性があります。このため静電気放電を予防する作業手順を定め、運用しています。

*1 著しい環境側面
事業活動で生じる環境に変化を与える原因となるもの、あるいは原因となる可能性があるものを「環境側面」といいます。「著しい環境側面」は、環境側面の中で環境に与える変化が特に大きいと綜研化学グループで判断したものを指します。

環境苦情*2

(総発生件数：2件/狭山サイトで発生)

狭山サイトで騒音苦情が2件発生しました。いずれも近隣住民の方からのご指摘です。内容は年始休暇の工場休業中に継続稼働していた設備から発生した騒音に関するもので、対策を実施済みです。

*2 環境苦情
近隣住民の方、お客様、お取引先様、行政等からの環境に関する指摘を指します。環境苦情が発生した場合、その原因を明らかにし、再発を防ぐための対策を実施しています。

環境不適合*3

(総発生件数：1件/狭山サイトで発生)

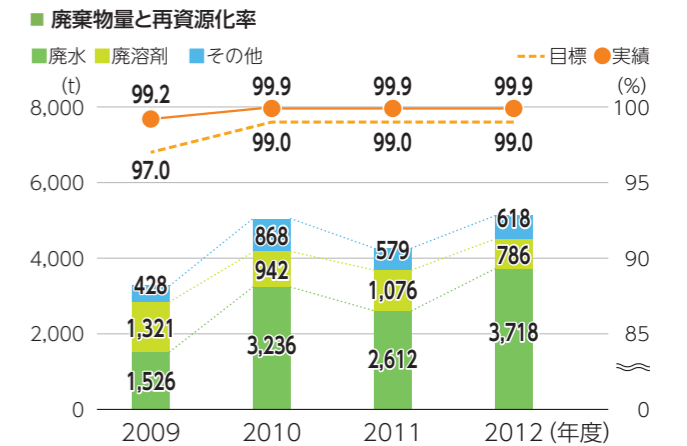
特定作業の健康診断実施結果報告の当局への届出を怠ったもので、原因は法令に定められた報告頻度の解釈の間違いでした(2年に1回の診断実施の求めに対して、診断実施不要の年も実施しない旨の報告が必要であった)。担当者の再教育、チェック体制見直しで対応しました。

*3 環境不適合
環境マネジメントシステムで定めたルールに違反していることを指します。環境不適合が発生した場合も、環境苦情と同様に原因究明、再発防止対策を実施しています。

廃棄物削減・資源循環の推進

2009年度に達成したゼロエミッション*4を2012年度も継続しています。2012年度の廃棄物の総発生量は5,122t(対前年度比20%増)で、生産量の増分(同16%)を上回りました。これは微粉体生産量増加に伴う廃水量増加(同42%増)の影響で、今後も廃水量の少ない微粉体製品の開発、既存品プロセス見直しで廃水量削減に取り組みます。

*4 ゼロエミッション
綜研化学グループでは、ゼロエミッションの定義を「事業活動で生じた全廃棄物のうち、最終的に埋立処分となる廃棄物量を1%以下とする」としています。



2012年度の取り組み事例

粉体工場分級機の改造 (狭山サイト)

粒子径の揃った微粉体製品の製造工程には、掃除機でもおなじみのサイクロンを備えた分級機を用います。このサイクロンの善し悪しが製品捕集率に直結し、発生廃棄物量に大きく影響します。サイクロンの専用設計による最適化で製品捕集率を向上させ、発生する廃棄物量を大きく削減できました。



微粉体部粉体技術G
石塚 正和

空調室外機の省エネチューニング (本社サイト)

事務所のエアコンに着目し、室外機内部の制御基盤の設定変更による改善を図りました。運転開始直後などの高負荷時にコンプレッサーの出力を抑制し、省エネルギー運転を行うことで、昨年夏の猛暑にもかかわらず計画停電が実施された2011年度並に電力使用量を抑えることができました。



経営管理部経理G
吉田 泰典

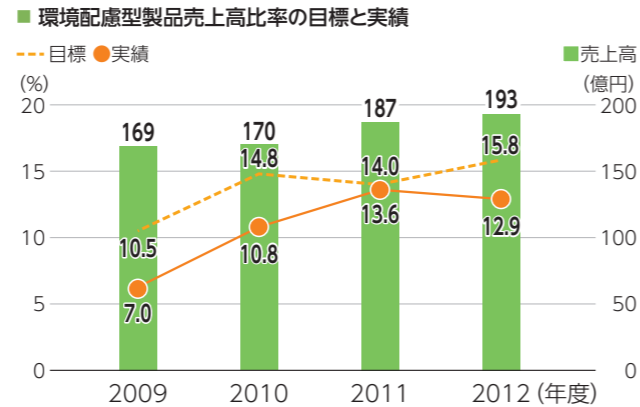
環境配慮型製品

綜研化学グループでは、環境配慮型製品*1の開発と提供に積極的に取り組んできました。2012年度は全製品中の売上高比率15.8%を目標に製品開発・販売拡大を目指しました。

2012年度の環境配慮型製品の売上高比率は12.9%で、目標の15.8%には及びませんでした。アイテム別では粘着剤製品がほぼ目標通りとなったものの、特殊機能材製品、微粉体製品、加工製品は未達でした。

今後も引き続き各アイテムで、環境配慮型製品の開発とお客様へのご提案を行ってまいります。

*1 環境配慮型製品
地球温暖化防止、化学物質による汚染防止、環境リスク低減、資源循環、自然エネルギー・非枯渇資源の活用など地球環境の保全と社会の持続的発展に貢献する一連の製品群です。

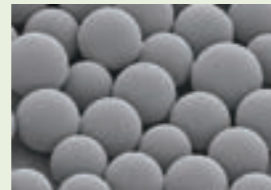


環境配慮型製品

微粉体製品「MZシリーズ」

MZシリーズは生産工程で発生する廃水を大幅に削減した環境配慮型製品のアクリル微粒子です。アクリル微粒子と聞いてイメージが湧かない方が多いと思いますが、実は私たちの暮らしの中の身近なところで使用されています。

例えば、テレビやパソコンの液晶画面の内部に使われている光学フィルムに塗工すると、バックライトから出る光が効率よく拡散されて画面が明るく見えやすくなり、製品の低消費電力化に貢献します。また、家電や建材用の塗料に配合すると艶消し効果を出し、意匠性を良くします。MZシリーズは環境負荷が少ないこと以外にも、一つ一つの粒子の大きさが揃っている、耐有機溶剤性が優れているといった特長があり、様々な用途でご使用頂いております。



微粉体部粉体営業G
高橋 英人

装置システム製品「熱媒ヒーター/VOC*2回収装置」

2010年から進めているPREEN事業*3のひとつとして、お客様にSK熱媒ヒーターの燃料転換と廃熱回収を提案しております。重油から都市ガスへの燃料転換によりCO₂発生量を約20%削減し、廃熱回収による熱効率向上でさらに効率的な運転が実現できます。また、燃焼異常による環境破壊防止を目的に、お客様がご使用中の熱媒体、熱媒ヒーター設備の保全等のご提案も行っております。他にも当社開発オリジナル商品のVOC回収貸出装置で、お客様の設備で回収効果を実証し、高い評価を頂いております。



綜研テクニクス(株)
技術開発部長
石川 諭

*2 VOC
Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)の略称で、直感的には、「有機溶剤」と考えて良く、塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤、ガソリン、シンナーなどに含まれるトルエン、キシレン、酢酸エチルなどが代表的物質です。大気中の光化学反応により、光化学スモッグを引き起こす原因物質のひとつとされています。

*3 PREEN事業 (PREEN: Plant Renovation Engineering)
お客様の生産設備を「診断」、「再生」、「維持」するトータル・サービス・ビジネスです。

その他の環境配慮型製品

- 粘着剤; シロップタイプ (無溶剤型)、エマルジョンタイプ(水系)、ノントルエンタイプ(トルエン不使用)、高不揮発分タイプ(溶剤減量型)
- 特殊機能材; アクトフロー® (無溶剤型樹脂改質剤)
- 加工製品; JETテープ® (無溶剤型粘着剤使用の粘着テープ)

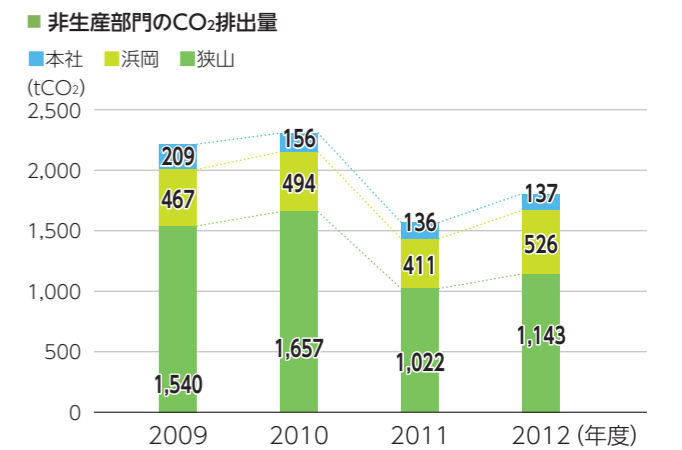
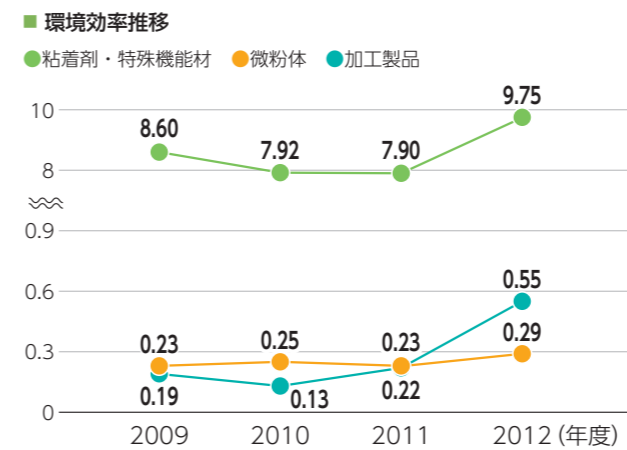
地球温暖化防止

従来、綜研化学グループでは地球温暖化防止の評価指標に全製品の生産量と活動全体のCO₂排出量で環境効率を算出していました。第三次環境中期計画ではより細かく評価するために指標を細分化し、生産部門はアイテム毎の環境効率で、直接生産に関わらない非生産部門はCO₂排出量で評価を行います。

環境効率とCO₂排出量

粘着剤・特殊機能材、微粉体、加工製品の環境効率は、いずれも昨年度を上回りました。これは各種対策の効果と生産量増加によるものです。特に加工製品では昨年度にフル稼働した触媒燃焼式脱臭装置によるCO₂削減効果が大きく、環境効率は0.22から0.55に向上しています。

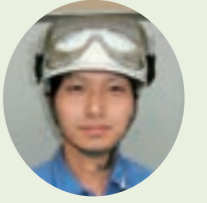
反面、非生産部門のCO₂排出量は1,569tから1,806tに増加しました。これは昨夏の猛暑による空調電気量の増加、狭山サイトの新事業棟の本格稼働、生産量増加の間接的な影響等によります。



2012年度の取り組み事例

製品倉庫出入口の自動開閉式シートシャッター (浜岡サイト)

工場生産された製品は、貯蔵中の品質変化を防ぐため温度制御された倉庫内で保管管理しています。特に夏場の入出庫時には、出入口から外部に冷気が漏れ出すことで空調設備に負荷がかかり、電力を余分に使用していました。このため、自動開閉式のシートシャッターを倉庫出入口に設置し、入出庫時の冷気の漏れ出しを防止することで使用電力削減を図りました。



浜岡綜研(株)
製造部製造1G
菅野井 祐平

製造プラント洗浄の改善 (浜岡サイト)

粘着剤・特殊機能材製品製造プラントの洗浄で有機溶剤を使用しています。洗浄の際に放出される有機溶剤ガスによる大気汚染防止のため、自動制御された閉鎖系高速循環洗浄技術を確立しました。これにより有機溶剤ガスの大気への放出が大幅に抑制され、同時に洗浄時間短縮による省エネルギー化を実現しました。さらに作業環境の向上による健康被害防止や操作ミスからの洗浄不良防止にも役立っています。



粘着・機能樹脂部
粘着剤営業G
永岡 裕之

解説: 綜研化学グループの国内最大の生産拠点である浜岡サイトでは環境負荷を減らしながらいかに効率良く生産するかを常に考えた改善活動を進めています。製造プラント洗浄の自動化は狭山サイトの生産技術部門で確立した技術で、サイトの枠組を越えて環境負荷低減を目指した施策です。

化学物質による汚染防止および環境リスクの低減

安全に事業活動を継続するために、関連法規制等の順守は当然のこととして、取り扱う化学物質の環境への放出を軽減し、また、事業活動に伴う騒音、振動等を抑制するための対策を実施しています。

PRTR対象物質*

2012年度に取り扱ったPRTR対象物質は、排出量12t、移動量65tでした。生産量増加に伴い排出量は対前年度比26%増となりましたが、移動量は21%減となりました。

*1 PRTR対象物質 PRTR制度(化学物質排出移動量届出制度)に基づき、排出量、移動量の届出が義務付けられた化学物質のことをいいます。

製品SDS(安全データシート)の提供

製品をお客様に安全に御使用いただくため、全製品のSDSを提供しています。今後の規制強化に伴う法令改正、新たな危険・有害性情報を迅速に反映できるようにSDS管理システムを導入し、運用に向けた取り組みを進めています。

騒音・振動対策

法的基準値内の維持継続のため、騒音発生源の緩和・遮蔽、騒音発生作業の見直し、工事前の環境影響評価により予防措置を実施しています。今期は液体窒素タンク圧力逃し弁への消音器設置(下記)、新事業棟騒音対策(P25参照)等を行いました。

VOC(揮発性有機化合物)・臭気対策

使用している有機溶剤による臭気の漏洩、大気汚染を防ぐため、VOC発生源の密閉化、脱臭設備の増強などの対策を進めています。今期は洗浄設備の密閉化(P23参照)、遊休タンク活用による計量工程自動化推進(下記)等の対策を行いました。

2012年度の取り組み事例

液体窒素タンク圧力逃し弁への消音器設置(狭山サイト)

窒素ガスの供給源として液体窒素タンクを設置しています。液体窒素は沸点がマイナス196℃と大変低い液体で、貯蔵している間に少しずつ気化してタンク内部の圧力が高くなります。液体窒素タンクには圧力逃し弁といわれる安全装置が付属し、タンク内の圧力が一定以上になると窒素ガスを放出して安全な圧力を保ちます。圧力逃し弁出口に消音器を設置し、放出時に発生する音を低減しています。



狭山綜研(株) 製造部業務G 岡田 正治

解説:

狭山サイトの法的な騒音規制は敷地境界線で夜間60dB以下に規定されていますが、周囲に住宅地が立ち並ぶ立地条件から、より厳しい自主基準値を定めています。狭山サイトの騒音対策はこの順守に向けた取り組みです。

音の大きさの目安(dB)

120 飛行機のエンジン近く	80 地下鉄の車内(窓を開けたとき)・ピアノ	40 深夜の市内・図書館
110 自動車のクラクション(前方2m)	70 掃除機・騒々しい事務所	30 ささやき声
100 電車の通るときガード下	60 普通の会話・チャイム	20 木の葉のふれあう音
90 大声による独唱、騒々しい工場内	50 静かな事務所	

dB:デシベル(音の大きさを表す単位)

出典:東京都環境白書2010

浜岡A棟タンク有効利用(浜岡サイト)

遊休地下タンク2基を原料貯蔵用のタンクとして再利用し、ドラム缶購入原料の一部をタンクローリー購入に切り替えました。タンクに接続した計量ラインの使用が可能になることで、原料計量時の開放作業がなくなり、環境中へのVOC排出量が削減できました。加えて作業担当者の曝露の危険性も低減しています。原料の一括購入によるコストダウンも大きなメリットです。



浜岡綜研(株) 業務部業務G 栗林 秀樹

サイトデータ

狭山サイト

狭山サイト環境実行委員長
生産技術部長
山田 英雄



狭山サイト全景

■ 事業所設置	1961年
■ 敷地面積	28,795㎡
■ 所在地	埼玉県狭山市広瀬東1丁目13番1号
■ 主な事業内容	粘着剤、微粉体、特殊機能材、加工製品の開発、製造およびプラント用装置の開発

狭山サイトは周囲に住宅が立ち並ぶ立地条件から、周辺環境に配慮した事業活動が要求されます。騒音対策は消音技術の専門家の協力で各発生源で10dB程度低減可能なことがわかり、重要度の高いものから順次対策を進めています。臭気対策では2011年度に導入した触媒燃焼式脱臭装置を継続運用しています。生産技術面では、VOCガスの大気放出防止対策で閉鎖系の洗浄技術を確立して浜岡サイトで導入し、狭山サイトへの展開を図っています。商品開発面では、各製品ユニットで環境配慮型製品開発に関する技術の蓄積が進み、今後の展開が期待できます。

引き続き綜研化学グループのマザー工場として、環境配慮型製品、環境対応技術の開発、工場の生産効率の向上などの改善活動を継続します。

2012年度の取り組み事例

新事業棟騒音対策(狭山サイト)

新事業棟は綜研化学グループの未来を担う開発拠点のひとつです。新事業棟実験室では作業環境維持のため局所排気ファンを設置しています。これは労働安全衛生法上必要な設備ですが、同時に騒音発生源でもあります。吸気口のルーバーを防音仕様とし、さらに外部に遮音パネルを設置して、騒音低減を図りました。



新規事業部 NIP製品PJ 洞口 裕哉

浜岡サイト

浜岡サイト環境実行委員長
浜岡綜研(株)取締役工場長
関口 勉



浜岡サイト全景

■ 事業所設置	1992年
■ 敷地面積	46,869㎡
■ 所在地	静岡県御前崎市池新田8665番1号
■ 主な事業内容	粘着剤、特殊機能材の製造および微粉体中間体の製造

浜岡サイトは綜研化学グループの量産工場・物流拠点です。お客様に高品質な粘着剤・特殊機能材製品を提供するとともに、環境面では3Rによる廃棄物削減と省エネルギーを推進しています。廃棄物削減では製造設備の洗浄溶剤の種類や汚れ度合いに応じて処理手順を細分化し、特別管理産業廃棄物量を3%削減しました。省エネルギーでは危険物倉庫の空調機更新、出入口への自動開閉式シートシャッター設置などで電力使用量を3%削減しました。また、新たに導入した太陽光発電システムが稼働しています。これは節電(省エネルギー)から創電(エネルギー創出)へ、さらには社会的な課題でもある再生可能エネルギー普及拡大への取り組みでもあります。

2012年度の取り組み事例

事務棟太陽光発電(浜岡サイト)

事務棟の屋根のスペースを活用して太陽光パネルを設置し、2013年1月から発電を開始しました。稼働後3か月間の実績から年間発電量は一般家庭約10軒分の電力消費量に相当する55,000kWhを見込んでいます。



生産技術部 プラント設計G 武井 正幸

コーポレート・ガバナンス

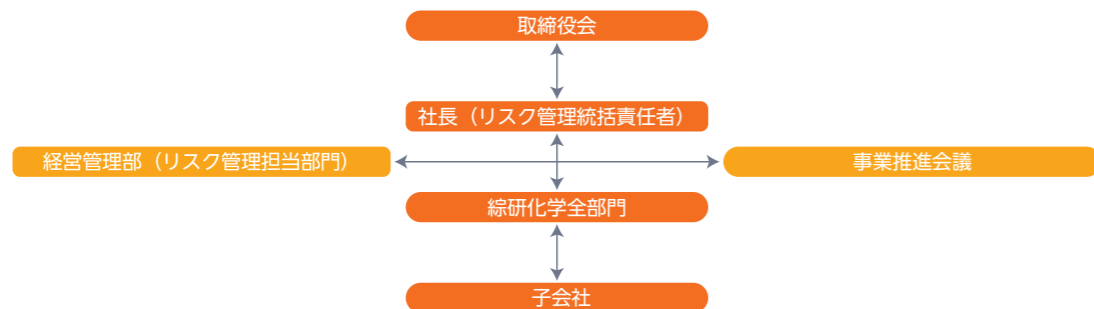
当社は適切な企業統治の推進・徹底を図ることにより、企業としての社会的責任をはたし、関係する皆様から信頼していただけるよう努めていくことを基本方針としております。

》》 リスクマネジメントの取り組み

綜研化学グループは、経営理念の実現、経営目標の達成の妨げとなる全ての事象をリスクとして認識・評価し、全社的視点から優先的に取り組むべきリスクを特定して、リスク影響の低減と未然防止のための対応策をリスク管理計画として取り纏め、その計画に基づいたリスク管理活動を進めております。

2012年度は、東日本大震災や国内化学工場での事故などをふまえ、安全確保と製品供給責任に主眼を置いたBCP（事業継続計画）の策定を進めてまいりました。今後は、事業活動のグローバル化に伴い複雑化・多様化するリスクに対し、グループ全体でのリスク管理体制の強化を図り、持続的な企業価値の向上に努めてまいります。

■ リスク管理体制図



地震災害リスク管理計画の策定を通して

東日本大震災を機に、当社グループでは「東海大地震」と「首都圏直下地震」を想定した「地震災害リスク管理計画」を策定しました。大規模地震発生時に、従業員の安全を確保し、お客様への製品供給責任を果たし、迅速な復旧による市場の優位性を維持することが本計画の目的であり、ひいては企業価値の向上に繋がるものです。本計画の策定を通して、従業員一人一人が状況を適切に把握・評価し、柔軟かつ迅速に判断・行動することが重要であり、本計画にあるリスク対策や従業員に対する周知・訓練の実施だけでなく、日常業務のなかでリスクに対する感覚を研ぎ澄ますことが極めて重要であることを再認識する機会となりました。



経営管理部長
滝澤 清隆

コーポレート・ガバナンスにおける当社の取り組みは、HPにて詳細を確認いただけます。

<http://www.soken-ce.co.jp/> トップページ下方の「コーポレートガバナンス」を参照下さい。

第三者意見



綜研化学「2013 社会・環境報告書を読んで」

公益社団法人 化学工学会
産学官連携センター SCE-Net
服部 道夫

化学会社で事業、プロセス、設備などの開発に従事し、その後大学の非常勤講師、企業の技術支援などを歴任。
元 環境マネジメントシステム主任審査員。資格：技術士(化学部門)、神奈川県技術アドバイザー、環境カウンセラー(事業者部門)

「受け手の視点から」

社会・環境報告書は、企業活動が社会・環境に及ぼす好ましくない影響を予防し、好ましい影響を付加する活動の計画・実施結果を報告するものと考えられます。ではだれに報告するのでしょうか。①お客様・お取引先の皆様と最終ユーザー、②活動の担い手である社員、③近隣住民の皆様と考えられます。これら受け手の視点から考えてみたいと思います。

①お客様・お取引先の皆様と最終ユーザー向け

2013報告書は、冒頭に製品の使用場面を発信しています。消費者の皆様に向けた視点が明らかにされており、表現方法の更なる工夫により、更に身近に感じるものとなることを期待します。本年より「お取引先様からのメッセージ」が記載され、今後とも顧客が綜研化学になにを期待しているかの道しるべとして活かしていくことを期待します。

②活動の担い手である社員向け

社員が会社方針・施策を自分のものとして「環境負荷低減・安全操業」の活動を担う意欲を高めるために重要です。一例をあげると「育児休業取得者の声」の記載は社員がこの制度を理解して相互に快く協力するために有用であり、更に将来の社員である学生向けに魅力的なメッセージとなることが望まれます。

③近隣住民の皆様向け

近隣の皆様の関心事は「マイナス面である生活環境への不快な影響防止と事故・災害の予防」と「プラス面である地域貢献」です。マイナス面への対応として災害予防処置と発生対応訓練の実施をベースとして、近隣住民の見学会を毎年実施し、参加者の声を活かして近隣と馴染み、不安低減と信頼を得ることは重要な視点です。またプラス面対応として子どもたち向けの質の高い理科教育が実施されており社会貢献として高く評価されます。さらに、「技術者の伝承・再生産」たとえば「この教育をうけた子どもたちの何人かが将来技術者になりたいと強く感じる」レベルを目指すことで、教える社員そのものがレベルアップしていくことを期待します。

「環境負荷低減の視点から」 第三次環境中期計画 重要課題3項目のうち2項目の目標・実績について

- ①「環境効率」：ここ数年、目標未達が続いていましたが、2012年度は4セグメントに分けて管理した結果、3セグメントで目標を大きく上回って達成しました。PDCAサイクルの適切な運用による仕組みの見直しが有効であったと思われます。
- ②「環境配慮型製品売上比率」：残念ながら2011年度にひきつづき、2012年度も目標未達です。懸命に努力をしても2年つづけて未達ということから、①と同様に未達の理由が仕組みのどこにあるかを深く分析し、適切な目標に対応した具体的な達成手段などの改善に継続的に踏み込むことを期待します。

全体としてよく計画・管理されており、それによって社員がそれらを自分のものとして生き活きと行動されていることが実感されます。PDCAサイクルの運用により継続的改善をつづけて上記の「期待する」が「達成する・実現する」に進化していくことを期待します。

第三者意見を受けて



執行役員
安全推進室長
山本一己

社会・環境報告書は、環境マネジメントシステムの導入と同時期に、お客様・お取引先様、従業員、近隣の皆様へ綜研化学グループの社会への貢献、安全・環境活動の取り組みについて情報発信をするために毎年作られてきました。

環境活動の当初は環境への著しい側面を抽出して、それらの環境負荷を低減する活動として始めましたが、活動を可視化して綜研化学グループのステークホルダーの皆様から意見を頂き、また、1年間の活動成果を振り返り進めている過程で、綜研化学グループとして環境保全を指向することは、研究開発から製造、サプライチェーンまでのプロセスにおいて、本来の企業活動として重要な資源のロス、エネルギーのロスを無くして低コストで製品を提供することであるということが分かってきました。つまり、商品を提供する生産プロセスにおいて、環境の保全活動の方向は、根本的には効率的な生産プロセスを追求する方向と一致し、研究開発と生産プロセスの改善により環境保全と同時に生産性の向上を達成できることが分かってきました。

今回、綜研化学グループの社会・環境報告書の受け手の立場から、綜研化学グループに期待することと、更に今後、努力すべきこと等の貴重なご意見を頂きました。また、環境中期計画については、2012年度の実績を踏まえて、今後の取り組みについてのアドバイスを頂きました。社会・環境報告書により、ステークホルダーの皆様からのご意見とご指摘を頂くことは、綜研化学グループにとって大きな励みと活動の方向を示唆して頂けるものです。綜研化学グループの環境保全活動は少しずつですが質の高い活動のステージになりつつあると感じていますが、更に一層の努力をしております。